

## 前書き

「自分の時間が増えそうだから、少し働こうかな」

そう思ったのは、次女が小学校に入学し、半年ほど経ったころでした。

それまで、主人の仕事の関係で転勤族、十数年専業主婦生活を送っていた私が、2004年に始めた仕事探し。このあといきなり働く壁にぶつかります。それでもファイリング業務から始まり、さまざま短期派遣から天職との出会いを経て、2011年に起業。一昨年10周年を迎えました。

今は専業主婦時代の経験、なかでも子育てという貴重な時間が、大きな糧になったと感謝しています。

2004年、家族全員での転勤生活に終止符を打ち、横浜に居を構えました。子どもの教育費の準備を考え「働こうかな」と考えましたが、そのとき決めたマイルールは「子育てが第一、今の環境でできることをする」

でした。

そして最初にエントリーしたのは、運送会社のコールセンター。選考にはPCの入力テストがあると聞きましたが、OL時代大手コンピューター企業に勤めていた私は、なんの不安もなく臨みました。

結果、惨敗。

当時はガラケー全盛期で、仕事から遠く離れた毎日を送っていた私。入力テストでは変換キーはどこ？ に始まり、退職してからの十数年間で、PCの仕様がまったく変わっていたことを知りました。調べるうちに、仕事情報一つ得るにしても、PCが必要とわかりました。フリーペーパーで職探しをしていた私は、仕事のスタート地点で必要なスキルが、0だったことに気づいたわけです。

それから私のスロークワークが始まりました。短期派遣で就いたファイリング業務（PCスキル不要）と並行して、自宅でPC入力を練習。3カ月後にはPCスキル要の派遣先でも、仕事ができるようになりました。

仕事の幅は広がっても、マイルール「子育てが第一、今の環境でできることをする」は、遵守しました。子どもの心身の成長を育むことが、親の使命と考えていたからです。自分でできることが増えても、子どもの心はしばらく不安定です。例えば子どもの不登校は、中学3年生がピークになります。不登校は誰にでも起こりうることで、起きたそのとき親が向き合えるか。心の成長を見守ることは、そばにいる時間が短くなるほど、難しいかもしれません。

そういう働き方でしたが、就業先から雇用契約のオフアアがたびたびあったことなど、仕事ではよい評価をされたようでした。なぜと考えるに、一つは時間内に正確にやり遂げること、言ってみると当たり前のことを、心がけていたからかもしれません。条件を自分で選んでいるわけですから、

しっかりと責任を果たさなければと考えます。

また、働いてみて子育ては、ヒューマンスキル獲得の宝庫と気づきました。自分の子どもと向き合うときや、子どものお友達・ママ友と接するとき、相手とよい関係を築こうとすれば、この力を養う機会が生まれます。ビジネスにおける「ヒューマンスキル」の重要性は、本文にて理論を交え、お話したいと思います。

こうして数年間派遣社員として働きましたが、2006年に出会った「アセツサー」という仕事は、当時の自分にとって天職だと感じました。その後いくつかの転職を経て、起業。顧客どころか仕事の知り合いすらほぼ0の状況で、周囲はみんな仰天しました。しかし、私には「なんとかなるだろう」という根拠のない自信がありました。さまざまな環境で、自分ができることを探し動いてきたことが、その自信となっていたのか

もしれません。

というのは、仕事のマイルールで掲げた「今の環境でできることをする」は、ずっと前から私のスタンダードなスタンスでした。例えば大好きなフルート。環境が変わるごとに、演奏する場を探して続けていました。子どもの乳幼児期はさすがに楽団などでの活動は難しく、ならばと、一人で自宅練習。そうしたところ、近所のママ友たちから頼まれて、フルート教室を開くことに。練習中は隣の部屋で子ども同士を遊ばせたり、生徒さんたちの家族を交えて演奏会をしたりと、とても楽しい経験ができました。どんな環境でも音楽は楽しめる。一つの形にこだわらず、そのときの環境に合わせた形を考えると、動きはじめることができました。そして動くに見える風景が変わり、新しい出会いにつながった経験も多くあります。

今回のテーマ「豊かな人生を送るヒント〜自分らしく生きる〜」。豊かな人生の定義は、人それぞれだと思います。私自身は「人生は豊かでしたか？」と聞かれたら、「はい」と答えます。そう答える背景は、弊社のミッ

シヨンにもつながっています。

弊社の使命は、働く幸せの提供と、その人が働く企業の成長支援です。新卒でもキャリアでも、企業はよい人材を採用しようと、時間やお金を費やします。社会人1年生の「よい人材」は、「対人面で問題がなく、自分の役割を果たせるようになる」と期待できる人材」言ってみれば「当たり前」のことができる人」が基本と考えます。独立し採用、育成に関わるようになり、その人材は貴重だと感じる場面が、多々ありました。

ですから社会に貢献できるのは、今働く環境にある人のみとは思いません。将来社会に出て「当たり前」のことができる」人を育てる親業は、長期的な社会貢献だと思います。

また、子どもが大きくなり、私のように働こうかな、と思うときが来るともありません。子どもを育てることにより、そのときに役立つ、とても大切な学びを得ることができます。

私の二人の娘は、今も山や谷を経験し、悩みながら社会人として生活しています。これからも悩むことはあると思いますが、ここまで育ってくれて、本当にありがとうという気持ちです。そして子どもの世界と向き合ったことは、今の仕事に生きています。そのときの環境で、無理をしすぎずやってよかったことは、たくさんありました。それが私にとって豊かと思える人生を作ってきたと思います。

豊かな人生を送る多くのヒントの一つにしていただけだと、とてもうれしく思います。

金子厚子